

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームくすのき
(ユニット名)	2階
所在地 (県・市町村名)	静岡県沼津市千本常盤町5-1
記入者名 (管理者)	近藤 京大
記入日	平成 21年 8月 8日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>理念「私たちは家庭的な雰囲気の中で笑顔を絶やさず共に笑い 皆と幸せを共有できる空間を創っていきます」 「家庭」である事を重視した理念を作り上げている。</p>	○	地域を理念の中に取り入れて行きたい。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>出入口から入ってすぐ見えるところに理念を掲げてある。</p>		
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>家族や地域の人達が来た時に、見てもらえるよう入って目のつくところに掲示してある。</p>		
2. 地域との支えあい				
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>外で会った時にはあいさつを交わすようにしている。 近所のスーパーや八百屋・床屋などを利用し顔なじみになっている。</p>		
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>町内清掃、敬老会、防災訓練に参加している。</p>	○	地域の行事に参加していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議の中で高齢者の問題や介護保険について説明をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の資料は職員全員で議論した。前回の評価後、評価について話し合いを設けた。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、前回からその日までのホームの現状報告とそれに対しての質疑応答をしている。	○	会議の内容をホーム全体で話し合いサービス向上に活かして行く。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険申請・事故報告書等で市役所に向かう。生活保護受給者のことについて連絡を取り合っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	社内研修を行なっている。実際に仕事をされている方より、権利擁護事業について話しを伺った。また、必要性について話し合っている。	○	必要があれば対応をしていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について考え、防止に努めている。	○	高齢者虐待防止関連法について学び、今後も虐待がないように努めていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居時、契約書をもとに説明をしている。不安・疑問に対してもその時だけでなく、随時説明するようにしている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>相談・苦情窓口をもうけており利用者の意見など個別対応している。定期的に相談員の方などが来訪され、利用者の話しを聴いてくださっている。その際、相談員の方に話した内容を伺える範囲で教えていただいている。</p>	<p>○ 意見や不満を上手に表せない利用者の思いも汲み取れるように努めていきたい。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月、家族に手紙を書いて本人の様子を伝えたり、出納帳やレシートをコピーして送っている。</p>	<p>○ 写真なども送付していきたい。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情相談窓口を設け、入居時に説明をしている。</p>	<p>○ 必要に応じスムーズな対応が出来る様にしていきたい。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員に相談をしたり、受けたりをその都度行っている。また管理者同士で連絡を取り合い意見交換をしている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>勤務調整を行い、職員の確保が行なえるように調整している。利用者の体調変化により通院が必要な時は、出勤時間を早めたり、残業をしてもらい必要人数を確保している。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の離職時について辞めたとは言わずに他の理由を伝えダメージを防いでいる。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内の内部研修を設けている。新入社員研修を実施している。 社外の研修は情報提供がされている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	沼津市のグループホーム連絡協議会に参加し、ネットワークを形成し情報交換を行なっている。勉強会もあり参加している。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ホーム内で親睦会を設けたり、会議の中でお互いの意見を言い合える機会を設けている。	○ 職員同士気を使ってしまい話せない環境もあるため、話しを聞く機会を多く作っていく。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	希望休をとり、休みの希望を聞き勤務に反映させている。 必要に応じて有給休暇を取れるようにしている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人に会いに行き会話をし聴いている。またホームに来所出来る方には、来ていただきホームの様子に慣れていただいている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所までに何度かお話しをする機会を設けお話しを聴いている。電話相談では相手が落ち着いて話ができる様に努めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時によく話しを聞き、本人と家族が必要としている支援を見極めるよう努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前に1度ホームに来ていただき雰囲気を肌で感じ馴染める様支援している。 職員に可能な限りの情報提供を行なっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	会話の中で、料理の仕方などを利用者尋ね、教わりながら行なっている。 昔の出来事や生活の様子などを聞かせていただき学ばせていただいている。 お皿拭き等の出来る事は手伝っていただいている。	○	料理や掃除を共に行い、やり方などを教えていただく。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	毎月、家族に手紙を書いて本人の様子を伝えている。 病院への受診をお願いしている。 面会に来訪されたときに最近の様子などを伝えて職員と話しをする機会を設けている。	○	面会などを通して、家族にも本人の様子を見ていただく機会を設けていく。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	毎月手紙を出したり、来訪時に話しをしたりしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人が来訪された際、居室で過ごしてもらっている。 本人宛に届いた手紙や小包に対し、家族に報告し、本人と共にお礼状を出すなどしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の個々の関係を把握するように努めている。 合わない利用者については職員が早めに間に入るようにしている。	○	利用者同士が協力するような機会を設ける。 利用者個々に合わせた席の配置を考えて行きたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後、家族や転居先から情報を求められた際は随時対応をしている。 継続的な関わりは持っていない。	○	継続的な関わりが必要な場合には協力を行なう。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンスなどで話し合っ希望や意向を把握するよう努めている。	○	言葉に出来ない思いや、職員に気を使って言えない気持ちや我慢している気持ちを汲み取るようにしたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員が個別ファイルに目を通し把握に努めている。 家族に利用者の昔の生活歴やなじみの暮らし方などを聞いている。本人よりこれまでの生活歴について伺い教えていただいている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの一日の様子・状態など、小まめにケース記録に記入しその記録をもとに本人の様子・心身状態の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人が話し合いに参加できる場合には、本人・家族・関係者との話し合いを行い、本人が話し合いに参加するのは困難な場合は、本人目線で検討できるように努めている。事前に職員より聞き取り行っうえで、結果を介護計画に反映させている。	○	今後も個別カンファレンスの機会を作っしていきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入院等により本人の状態が大きく変化した場合には、関係者と話し合い現状に即した新たな計画を作成している。 通常は、見直し期間での見直しを行なっている。	○	期間に応じた見直しが遅れがちな為、取り組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員が気付いたことや変化があった時など記録に記入している。	○	個別で判断をせず、カンファレンスを早急に開き実践や介護計画に早めに反映できるようにする。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の状況などに合わせ、勤務変更を行ったりすることで、できる限り対応が出来る様にしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	月1回のボランティアによるドックセラピー、消防本部の協力を得ての防災訓練、地域介護相談員の訪問などを行っている。 不定期でマジックや音楽をボランティアで行なっていたり、床屋へ一緒に行ったり、外出が困難な利用者は出張してきていただいている。	○	ボランティアによる様々な活動や機会を受け入れて行きたい。地域の活動を把握し参加するようにしたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	退居者の行き先などのため、ケアマネジャーやサービス事業者との連携を行なっている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの研修に参加している。	○	権利擁護や総合的・長期的なケアマネジメントについて必要時、協働していきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時かかりつけ医の移行について家族・本人に確認をしている。定期受診には家族に対応してもらおうが、出来ない家族については職員が本人のかかりつけ医に付き添っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	週5日往診に来てくれる提携医がいる。24時間電話対応にいつでも対応していただき相談・指示を仰いでいる。必要な利用者は2週間に一度往診に来てくださる。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	週に1度、看護師の方が来てくれ、利用者との関係を築いている。医療的な相談・助言を受けている。連絡がうまく取れないときがある。	○	連絡が上手く取れるようにしていきたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には病院のケースワーカーや担当者と情報交換や相談を行ない早期に退院出来るよう努めている。近くの総合病院と提携している。	○	御家族・関係医療機関と相談しながら早期退院に向け検討していきたい。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している		○	本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有していけるようにしていきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ターミナルケアのマニュアルが作成されている。	○	重度や終末期になった時のために職員間で話し合いを設けておく。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	事前に別の居所へ移り住む意向が分かっている場合には家族との話し合いを行い、スムーズに移行できるよう努めている。退去時サマリーを提供している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの配慮を行なっている。 失禁時にはそっと声をかけ居室やトイレに誘導し対応している。記録に本人以外の利用者の名前を記載する場合にはイニシャルを使用している。	○ 利用者のプライバシーに関わる事が、他者の耳に入ってしまうないように今後も気をつけていきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	自己決定を促すような声掛けを心掛けている。	○ 自己決定の難しい利用者に対して、職員から働きかけを行い自己決定を促す支援をしていく。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や食事、入浴など個人のペースや希望にあわせるような支援を行なっている。 日々の仕事に追われ一人一人のペースや希望に添えていないことがある。	○ 本人のペースに合わせる支援を継続していきたい。 本人のペースを尊重しながら生活のリズムを整えていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	日々、清潔なものを着用されている。 髪が伸びてくると近くの床屋に行っている。 食事が上手く取れないような利用者については、エプロンを着用し服が汚れないようにしている。	○ 化粧を楽しめるよう支援をしていきたい。 化粧ボランティアを依頼するなどし、おしゃれを楽しんでいただきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付け、洗濯物量など、できる事を職員と一緒にに行なっている。 食事は職員のみで作ってしまうことが多い。	○ 一緒に食事の準備や片づけをする機会を増やしていきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	買い物に行った際、本人の好きなものを選んでもらっている。 移動パン屋が来たときは、パン好きな利用者を連れて行き買うようにしている。	○ 喫茶店などに連れて行きたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりに合わせて支援を行なっている。入居時や退院時は、排泄チェック表を使用し排泄習慣を把握している。	○	職員が利用者一人ひとりの排泄パターンを常に理解するよう心掛ける。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	出来る限り希望に添うように支援しているが、時間や順番等により希望に添えないこともある。訴えの無い人には職員から声掛けを行なっている。拒否があった場合は無理強いをしないようにしている。ゆず湯など季節に応じたお風呂を提供している。足浴を空いている時間に行なっている。入浴剤を使用し、お風呂の楽し		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	就寝時間を特に設けていないため、自分のペースで休まれている。一人ひとりの様子を見ながら、眠そうなときは声掛けを行なっている。居室内の温度を調節している。あまり遅くまで起きている利用者には体のことを考え臥床するよう声掛けをしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	短い時間でも外出・散歩等を行い気分転換を図っている。洗濯物干し・選択たみ等できることを手伝っていただいている。その人に合った役割や物事を探すよう常に努めていきたい。	○	まずは簡単な手伝いをさせていただき、少しずつ役割を見つけていきたい。自分のできる事をしていただける様、声掛けや介助を行なっていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の利用者に関しては自分でお金を持っており、買い物の際自分で支払いを行なっている。預かり金を預かり、本人の欲しいものが購入出来る様になっている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	出来るだけ希望に添った支援を心掛けている。他者との関係もあり希望に添えないときもあるが、その際は職員より説明をしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人の思っているような場所に行く事は難しいが、出来るだけ外出できるように支援している。お茶や外食に出かけている。可能な家族には協力していただいている。外出や外食などについて一定の利用者に偏ってしまう傾向がある。	○	拒否等なければ、できるだけ平等に外出等を支援して行きたい。公共の交通機関を使用するの外出を取り入れていきたい。家族にも協力していただき、なじみの店や場所、自宅などに外出し本人の希望を叶えられるよう支援していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の訴えがあった場合対応をしている。	○	毎月だす近況報告の中に、利用者の手紙を同封したり、年賀状や暑中見舞いなどを利用者書きだしてみる支援をしていきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間の設定は決めておらず自由に出入りが出来る様にしている。 来訪された時にはお茶を出したり、イスを用意してゆっくりと過ごせる空間をつくっている。	○	ホームにて一緒に食事を気軽に食べていかれる関係を構築していきたい。 職員より食事をホームでも取れる旨説明を行ってきたい。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロを宣言している。	○	「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」について詳しく理解できていない。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけずにケアに取り組んでいる。 夜間のみ、出入り口・ベランダの窓・各居室の窓を施錠している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜通して所在確認は行なっている。 出入り口に鈴をつけ、単独外出、階段での事故を防ぐようにしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	自分で管理できる利用者については管理されている。 出来ない利用者については、必要としている時に職員から提供するようにしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの行動パターン・癖などを把握し事故防止に努めている。誤薬を防ぐために何度も確認したり職員同士で声掛けを行なっている。	○	誤嚥・ムセがある利用者には嚥下体操を取り入れていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時のマニュアルに添った対応をしている。 普通救命講習を職員全体で受講した。	○	マニュアルについて確認する。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練を行なっている。 自治会活動に参加している。	○	防災訓練の日に合わせ、地震や津波など様々な状況に応じた訓練をしていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時に起こりうるリスクについて説明している。 起こり得るリスクが発生した場合にはその都度、家族と連絡を取り合っている。 アセスメント表やケアプランを作成し、家族等の確認をとっている。緊急時の対応における家族の確認を書面としてとれていない。	○	緊急時の対応や延命の確認などをしっかりとっていききたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化や異変があった時は、ケース記録や申し送りノートに記載し情報の共有に努めている。 必要時、提携医や看護師に相談している。	○	体調の変化や異変を見逃さないようにして、対応が遅れないよう努めたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量についてある程度は理解しているが十分ではない。 錠剤を飲み込みにくい利用者は、医師に相談し粉薬へ変更したり飲み込みやすいようにゼリーを使用している。	○	薬の目的や副作用、用法や用量について常に把握し理解していききたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便状況を常に把握するようにしている。 毎日、ヨーグルトか牛乳を朝食に提供している。 自力での排便が困難な利用者には医師より処方された下剤にて調整を行っている。	○	便秘の原因や及ぼす影響を理解し、便秘改善の飲食物の提供や体を動かすように働きかけていきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアは夜のみで毎食後はしていない。 入れ歯洗浄剤を毎日実施している。 利用者に合わせて毎食後、声掛けを行ったり介助にて対応している。	○	家族にも協力をもとめ歯の定期健診を行なっていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスを考え食事を提供している。 10時・15時に水分を提供している。摂取した量を記録に残している。食事量水分量が少ない利用者には必要に応じ介助し摂取していただいている。 お粥やゼリーなどを提供する事により水分を補うようにしている。	○	栄養士に介入していただき献立表をチェックしてもらう機会を設ける。 水分量が極端に少ない場合は医師や看護師に相談する。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	毎日手すり・トイレ・まな板のハイター消毒を行なっている。 曇りは天気のいい日に干している。 トイレなど尿・便汚染があったらその都度ハイター消毒を行っている。	○	感染対策委員会を定期的に開催していく。 ハイターと水の濃度・配合を一定に守るようにしていきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は、消費期限の早い物から使うようにしている。 作り置きは出来るだけしないようにしている。	○	月に一度は冷蔵庫内の掃除・物品管理をおこなう。 消費期限を確認して使用して行きたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	日中は鍵を開けてある。 来客者が来られたときは、できるだけ早く対応できるようにしている。	○	玄関周りの掃除を定期的に行なうようにする。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な音や光がないように配慮している。 季節に応じ飾り付けを行なっている。	○	季節感があるものを飾ることにより居心地よく過ごせるような工夫を行なう。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにあるソファで寛いでいる利用者がいる。 机の配置を考え、仲の良い利用者が話しがしやすいように工夫している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使っていたタンスやベッド・布団・カーテンなどなじみの物を持ってきていただいている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝、各居室の窓を開けて空気の入れ替えを行なっている。 エアコンで温度調節を行なっている。 温度計を設置し、室内温度・湿度を管理している。湿度が低いときは、加湿器を置いたり濡れタオルをかけたたりしている。 エアコンや換気扇の掃除が出来ていない。	○	エアコンや換気扇の掃除を定期的に行なっていきたい。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	壁際に手すりが設置してあり、歩行時よく利用されている。 段差のないつくりになっている。	○	浴槽の中に入出し易い工夫をしたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	場所が分からなくなってしまう利用者に対して、居室に名前をはったり、トイレの場所が分かるように紙に書いて貼ってある。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑で野菜を育てている。畑になかなか行けていない。	○	成長を見て楽しんだり、育った野菜で利用者と一緒に料理をし食べて楽しむなどにつなげたい。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
		<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
		<input type="radio"/>	③たまにある
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/>	②家族の2/3くらいと
		<input type="radio"/>	③家族の1/3くらいと
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ホームの所在地がとても静かな場所にあるので、利用者の皆様にはゆったりとした空間の中で自分のペースで毎日を過ごしていただいています。ケース記録は個別に細かく記録を行い、衛生面では洗濯・布団干し・入浴を小まめに行い配慮しています。また食事面においては、手作りの料理やおやつを提供し利用者の楽しみの一つとなっています。季節ごとに正月・七夕・クリスマス・餅つきなどの行事を取り入れることで生活の中に季節感を出せるようにしています。散歩で外出した際には、地域の方にあいさつを積極的に行なっています。